

佐久新校現地説明会に関する質問・回答

○7/4の質問回答を集約

No.	質疑	回答	備考
1	風向きについてはどのような状況か。	冬は北、西側からの風が特に強いです。	
2	弓道場、駐輪場等諸要件に記載のない建屋について施設整備の方向性はどのように考えればいいか。	諸要件に記載のない建物については、経済性・合理性の範囲内で除却可とします。	
3	上記建屋は除却する場合、計画する建屋に同様の機能は必要か。	除却した建屋については、 同様の機能を新築する施設に持たせること を想定しています。ただし、規模については、提案の範疇となります。	7/28 一部訂正
4	特別活動施設（岳南会館）はどのように利用されているか。	職員の会議、学年集会、生徒の探究発表の場等、様々な用途で利用されています。	
5	渡廊下に設置してあるネットはどのような用途か。	冬場に風が強くなるため、雪の吹き込み防止のため設置しています。	
6	南館はどのように利用されているか。	生徒相談室や、女子休養室として使用しています。また、施設管理室として校用技師が使用する道具等が保管されています。	
7	生徒の通学における正門と東門の利用割合を教えてください。	正門から保護者による送迎が多く、自転車通学の生徒は正門から入らないように指導しているため、自転車通学の生徒は主に東門や北門を利用しています。これにより、現状の利用割合は送迎がR141から正門へ、自転車は中込駅及びR141方面から東門や北門に集中しています。	
8	正門、南門、東門、北門の利用実態について教えてください。	各入口の利用状況は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正門：来校者や送迎の保護者 ・ 南門：車通勤の職員 ・ 東門：自転車通学の生徒 ・ 北門：自転車通学の生徒、 体育館裏に車を停める職員 	
9	スーパー探究校の指定を受けているということだが、どのような形で探究を実施しているのか。	平成20年代から探究に対する議論が始まっており、その中で本校ならではの探究のスタイルを作る必要があるとし、平成27年からは独自のテキストを作り、職員間で同じ歩調でファシリテーターにあたっている。授業としては月曜日の7コマ目に設定し、グループで活動し、2年間の探究・課題研究に取り組んでいる。探究係と副担任の先生が協力して次の授業のレジュメを作成し、共通認識を持って授業に臨みます。現在の探究のベースは、理数科課題研究の伝統も大きな要素です。	

10	探究ステーションはどのように利用されているか。	空き教室をグループワークやオンライン会議等がしやすいように整備したもので、電子黒板や一人一台端末の導入により、様々な形で行われる探究活動等に利用されています。	
11	野沢北と野沢南の校地検討の経過について教えてほしい。	懇話会やその中の校地検討部会で検討を重ね、交通面（中込駅、佐久平駅からの距離や佐久南IC、R141号からのアクセス）、道幅など様々な点から総合的に判断した結果、野沢北の校地のほうが適切という判断をしています。	
12	新校の授業展開はどのようになるか。	単位制の授業の導入を検討しているため、クラス単位の授業ではなく、大学の講義のように各自が幅広く必要な授業を選択することを想定しています。	
13	学校のイベント（社会と関わる場）として、文化祭のほかになんかものがあるか。	文化祭に合わせて、合唱コンクールや運動会も併せて行っています。イベント以外にも、外部サポーターと呼ばれる地域の方や大学等と連携して探究を行うなど、頻りに社会と関わる機会があります。	
14	野沢南の解体のタイミングや、仮設校舎の設置有無、跡地活用については提案の範囲内か。	要領別冊3ページに全体スケジュールを示していますが、具体的な検討はこれからになるため、その部分も含めて提案をお願いします。また、野沢南の校舎については、原則、活用する方向で検討を進めていくこととなります。	
15	探究ステーションの運用方法はどのようになっているか（予約制なのか、早い者勝ちなのか）。	空いていれば自由に使うことができます。生徒が郊外の大学等と繋がったり、教職員がオンライン会議等でも利用することも多くあります。	
16	探究以外の教科におけるICTの活用状況はどのようになっているか。	基本的にはどの授業でも一人一台端末（タブレット）を活用しています。学年によってロイロノートや、Google Classroomなど多様な活用をしています。また、各教室に電子黒板が設置されており、それを個人端末と繋ぎプレゼンを行うなど、自然な形で頻りに利用しています。	
17	野沢南高校の現在の学級数（生徒数）、職員数の規模感を教えてほしい。	全日制1学年5学級に加え、定時制1学級です。職員数については、野沢北と同程度です。	

18	新校の学級数を8学級程度と想定しているが、これは今後人口減少により、学級数が減少することを踏まえたものなのか。	現在、野沢北、野沢南併せて10学級規模ですが、R11開校時には人口減少により少なくなることが想定されます。学級数は各学校ではなく、地域の中のバランス（普通科と専門科、都市部と中山間地等）で考える必要があります。開校時には8学級規模が適正という判断となっています。なお、開校後も人口減少が予測されますが、出来る限り開校時の規模を維持していくことも考慮し、8学級としています。	
19	現在、外部の企業等と連携する際に利用できるスペースが現時点ではあるのか。	現時点で校内にはなく、学校の外に行くことが多い状況です。	
20	連携する企業の想定はあるか。	現在、外部サポーターとして参画している方は、本校のOBも多く、引き続き連携しながらさらに拡大を目指します。具体的には、地元企業や大学（信州大学・長野県立大学・佐久大学・筑波大学等）、さらにJAXAや自治体等です。	
21	屋内運動場第②を残す理由は、建物の耐用年数が経過していないからという認識でいいか。	ご認識のとおりです。	
22	提案する建築物の用途について、除却した建築物の機能、規模と同等とするなど、機能や規模の指定はあるか。	No.3回答と同様です。	
23	下宿をしている生徒はいるか。	数としては少ないが、部活動をやる生徒の中には下宿をしている生徒もいます。例年、県外からの入学問い合わせもあります。	